



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-2 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2016年12月号

NO 484

神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。
ヨハネの手紙1（略称 Iヨハネ）4章9節

強調月間 MC

大野貞次

金融発祥の地、日本橋

WHOウォーキングのご案内

2016～2017 年度をスタートしてもう半分の 12 月。早くも挨拶は「メリークリスマス」、よき 12 月（クリスマス）特別例会を迎えたいものです。

10 月 29 日に開催された次期部長・事業主任研修会に参加、部長心得をたたき込まれました。大変大変、これからの半年で準備をしなければ、何が出来るのかな？

利根川恵子東日本区理事（川越）が今年度の課題の 1 つとして会員増強新クラブ設立、会員 1,000 人突破をあげられています。これは長年の大きな課題ですね。

そして栗本治朗・次期区理事（熱海）は、主題として「広げよう ワイズの仲間」（Extension Membership & Conservation）です。これは「E・M・C」。会員 1 人 1 人が会員増強の意識を強く持ち、新会員候補の発掘・推薦

を心掛け、15 人以下のクラブは 20 人を目指し、また、部にエクステンション委員会を設置し、積極的に新クラブ設立に取り組む体制を作ることを心がけたいとのことでした。

さて今月の強調月間は「E・M・C」の MC です。メンバーを増強することを皆さんで考える時になります。さてさてどのように皆さんは考えますか。

YMCA への協力サポートクラブとして歩むそのことを理解し、共に志を持つ仲間を 1 人でも多く誘うことが出来ればと考えて行きたいものですが？ もし今、新しい力が生れなければ、何年か先にはクラブ存続が限界に来ることが考えられます。クラブ内だけではなく部・区の力を借りてでも良い方向に向かう様に、皆さんで考えて行きたいと思います。

（次期あずさ部長）

12 月は、日本橋、江戸、明治、大正から昭和の重層な歴史に変貌する現在を重ね合わせて歩きます。今回はこの町に住んだ文人の旧居跡、日本の金融の発祥の地を訪ねます。

期 日：2016 年 12 月 17 日（土）

コース：JR 東京駅－北町奉行所跡－秤座跡－ヤン・ヨーステン記念碑－安藤広重旧居跡－漱石名作舞台の碑－凧の博物館－兜神社－渋沢栄一邸跡－証券取引所－銀行発祥の地－芭蕉旧居跡－日本橋由来碑－金座跡－貨幣博物館－JR 神田駅

集 合：JR 東京駅 南口改札（地上）午前 9 時 40 分
解 散：JR 神田駅午後 2 時半
携行品：昼食、飲料、雨具、防寒具、敷物

クラブ役員

会 長 高嶋美知子
副 会 長 篠原 文恵
書 記 本川 悦子
会 計 石井 元子
担当主事 宮崎 純

11 月の記録		ニコニコ	7,940 円
在籍者数	17人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	760 円
出席者数	13人	コメント	0人
メーキャップ	0人	ファン্ড残高	152,610 円
出席率	81%	ビジター	3人
前月修正	-	ホテ校ファンド	6,000 円
		ホテ校残高	46,373 円
		出席者合計	18人
		WHO参加者	38人

12月クリスマス例会のご案内

今月の強調テーマ： MC(会員増強・維持開発)

早くも木枯らしが吹きすさぶ季節となりました。クリスマス、年末と、何かと気忙しい中にもお元気にお過ごしのことと存じます。

12月例会は恒例クリスマス祝会です。12月担当者がいろいろと趣向を凝らします。お楽しみに。お知り合い、友人を誘ってご出席ください。

日時：12月15日(木) 18:45~21:00

会場：荻窪駅西口 クレール・ド・リュヌ

杉並区上荻 1-10-4

(荻窪駅西口を青梅街道方面に出て、マクドナルドに沿って左折し、餃子の王将の2軒先)

会費：5,000円(ワンドリンク)

担当：B班(石井、神谷、河原崎、竹内、宮崎)

HAPPY BIRTHDAY

4日 神谷 雅子 7日 宮崎 純

15日 吉田 廸子

受付 神谷 幸男
司会 河原崎和美

開会点鐘	高嶋 会長
ワイズソング	一 同
聖書朗読・感謝	神谷 幸男
挨拶と紹介	高嶋 会長
会食と歓談	一 同
お楽しみ会	一 同
ワイズ報告	高嶋会長他
YMCA報告	宮崎 主事
ハッピーバースデー	高嶋 会長
スピーチ(ニコニコ)	一 同
閉会点鐘	高嶋 会長

—11月第2(事務)例会—

日時：11月24日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1階
第1会議室

出席者：石井、大野、神谷、篠原、
高嶋、本川、吉田

<報告事項>

- ①11月のデータを確認した
 - ②10月の経常会計を承認した
 - ③会員の近況が報告された
- <報告事項・例会>

▲1月例会

日時：1月19日(木)

18:45~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 5階
第2会議室

卓話者：未定

担当C班(山田、大野、小山、
片平、本川)

▲1月第2例会

日時：1月26日(木)

場所：あんさんぶる荻窪 1階
<協議事項・例会以外>

- ①次期会長候補の選出について協議したが、決定しなかった。1月の第2例会までに決める。
- ②村野絢子さんの転入届を12月

付で区に提出する

- ③長期欠席会員の処遇について：
a.休会会員、b.功労会員、c.退会、
d.会友(まだ制度はない)としての選択を、ご本人とご家族に確認していただくための訪問を12月中に会長と吉田さん、神谷さんがそれぞれ同行訪問する。
 - ④会計からメネット会の寄付を例年通り1万円とすることが提案され、決定した。
- <その他>

①ブリテン担当当番：

1月担当 C班(山田、大野、
片平、小山、本川)

2月担当 A班(吉田、篠原、
鳥越、木原、堀内)
(書記・本川悦子)

今後の行事予定

*松本クラブアジア賞表彰式

日時：12月17日(土)

場所：深志神社 梅風閣

*在京ワイズ新年会

日時：1月7日(土)

場所：山手YMCA

ホスト：東京たんぼぼクラブ

*あずさ部評議会

日時：2月11日(祝・土)

場所：山手YMCA

ホスト：東京たんぼぼクラブ

*東西日本区交流会

日本区が東西に分かれて20年になります。東西のワイズメン、パートナーが組織的に交流できる機会が減りました。節目の年に集い、旧交を温め、新しい出会いを楽しみましょう。

日時：2月4・5日(土・日)

場所：御殿場・東山荘

WHOコース集の地図作成

11月7日に発行した『WHOが勧めるウォーキングコース197』には、地図をつけませんでした。これには時間、コスト、作図技術などの障害があったためです。

庄司征彦さん(東京)が、グーグルの地図に、コースを点線で示したものを197コース全部作成してくださいました。現在校正中ですが、完成すれば実用面で大きく向上します。



カト一折りを説明する加藤祐一さん

－11月例会報告－

11月例会は、11月20日「あんさんぶる荻窪」で開催されました。高嶋会長の挨拶の中で、新会員候補として村野絢子（元東京目黒クラブ）さんの紹介がありました。大歓迎の気持ちで、会員の拍手に込められていました。ですが同時に退会者のお名前も。残念なことですが感謝と共に、長い間、お疲れ様でした。

卓話は加藤祐一さん、テーマは「エコにも災害にも強いカト一折り」です。「ecojapan2009」での「広がるエコ賞」受賞からはじまり、東日本大震災以後の「ecojapan2011」では、「エコチャレンジ賞」受賞が示すように、すでに10年以上、子供も大人も、保育園や病院、学校そして被災地の人々と、各方面で、環境にやさしく、実際に役立つ指導を続けていらっしゃる様子を伺いました。

そして私達にも古新聞紙や使用済みのコピー紙を配られ、実習の時間が用意されました。早々に「出来た！」と嬉しそうな声。しかし私をはじめ、手こずる者もありましたが、加藤さんの色々な場所でどのように役に立っているかを伺いながら、これは絶対身に着けようと思いました。

水を漏らさず、生ごみや汚物の臭いを閉じ込められることで、日常生活に大変役立つこと。そして非常時の防災や危機管理に役立つ方法を教えて頂きました。

自然災害と常に向き合わなくてはならない日本では、「カト一

折り」を身につけておくことが常識になれば、多くの方が、様々な苦痛のなかで、少しホット出来るだろうなと思いました。

簡易トイレや食器の代用、枕にも感動、そして情報を身に着けられるリストバンド、少し練習すれば、誰もが使えることを、考え続け、実用化していらっしゃる加藤さん、すごいですね。子供たちは自分でも考えようと思うと思います。また既に日常に利用している友人も知っています。実は帰宅後実習してみましたが、うまいきませんでした。

楽しそうに説明してくださるお話しに引き込まれ、手元をしっかりと見ていなかったかなと反省。ブログを拝見しながら、チャレンジしています。（鳥越成代）

出席者：＜メンバー＞石井、大野、片平、神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、宮崎、山田、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞長谷川あや子（東京八王子）、谷治英俊（東京まちだ）、村野絢子（転入会予定）、＜ゲスト＞加藤祐一（卓話者）、＜メーキャップ＞なし



WHO12月、西浦賀から東浦賀への「小さな船旅」

－11月WHO報告－

“遠足”黒船来航の浦賀湾めぐり

11月は、三浦半島の浦賀に“遠足”。黒船来航の港という以外は、ほとんど知識がなかったのが、当日のガイドを、よこすかシティガイド協会にお願いしました。

11月26日は、3日前の初雪とは一変、明るく温かい日差しでし

た。京急浦賀駅改札を出た38人は、赤い帽子とジャンパーのガイドさん7人に迎えられ、6組のグループで歩くことになりました。

最初に郷土資料館で、黒船来航を中心とした展示を見学。浦賀奉行所の中島三郎助という与力が地元で英雄であることを知りました。1853（寛永6）年、ペリー艦隊が初来航したとき、下級武士でありながら、副奉行と偽って、艦船に乗り込み対応し、浦賀に造船所を造り、函館戦争では、官軍と戦い戦死しました。しかし、彼の記念として政府の後押しで浦賀に造船所が創設され、浦賀ドックの前身となったそうです。もつと世に知られて良い人物です。

浦賀ドックは、平成15年に閉鎖、小高い丘から、ドックやクレーンの一部を眺めました。

西叶神社、為朝神社を巡り、奉行所跡を訪ねました。古くは、房総里見氏と戦った小田原北条氏の城があり、江戸時代には廻船問屋、干鰯問屋もあり、流通の拠点として、栄えたそうです。勸進相撲も行われたとか。そんな名残りは、鏝絵、彫刻などにとどめていました。

陸軍棧橋で昼食。ここに敗戦後、中国や南方から引揚者の約1割の56万人が上陸したことは知られていません。

生活の足として300年前からあったという渡船で東浦賀への約4分の「小さな船旅」。船は1艘で対岸にいる時は電話で呼びます。定員12人、1人も来てくれます。これは、ハイライトのひとつでした。

東浦賀でも、やや高所にある寺社を訪れ、グループごとの流れ解散状態で、浦賀駅に戻りました。

ワイズ関係参加者は、石井・篠原・吉田（東京西）、中澤・藤江（東京たんぽぽ）、関（石巻広域）でした。（吉田明弘）

大阪西クラブ 30周年記念例会参加記

IBC 大阪西クラブの創立 30 周年記念例会は、11 月 20 日正午より同クラブ例会の定例会場であるホテルクライトン新大阪で行われました。出席者総勢 110 人余、盛大かつ楽しい例会でした。会場の関係で人数を制限したとか。

第 1 部例会において、大阪 YMCA 総主事末岡祥弘さん、西日本区理事岩本悟さんが祝辞を述べられ、同クラブより大阪 YMCA へ記念献金が贈呈されました。

定番プログラム「私の好きな言葉」では、清水誠治郎さんが黒田官兵衛（如水）の水五訓（一、自ら活動して多を動かしむるは水なり 一、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり 一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり 一、自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり 一、洋々として大洋を充たし、発しては蒸気となり雲となり、雨となり雪と変じ霰と化し、凝しては玲瓏たる鏡となりえるも、その性を失はざるは水なり）を挙げて語られ、感動しました。

ゲストスピーチは、鳥居由佳さん。彼女は、斜陽化した林業の復興、自然環境の改善を願い、現在都会より森林地域に移り住み、ここで（奈良県吉野郡川上村）地域おこし協力隊員となり、主に林業振興に携わっておられます。スピーチは、多くの人々に林業というものを知ってもらいたいということでした。彼女の林業界への関わり方は、次の通り。

- *水を生み出すシステム＝林業
 - *すべての人と森をつなぐ
 - *木が生きものであることを伝える
 - *ポジティブへの意識改革
 - *思い遣り
 - *モノ売りではなくて、コト売り
 - *自然、あるがままのコトと共生する 同胞としての愛
- 大阪西クラブはその CS 活動と



「私の好きな言葉」を話す清水誠治郎さん

して行っている「うなぎの森」活動（植林活動）等を通して彼女と知り合ったとのことでした。

小休止の後祝賀会、京都ウェストクラブ森田恵三さんが、ペンタゴン DBC を紹介、PR した後乾杯。美味しいご馳走を楽しんだ後、スライドと口頭にて大阪西クラブ 30 年のあゆみ、畠平雅生さんの奈良傳賞受賞報告、参加者紹介、各種アピール等があって参加者同士の交流を深め、3 時頃散会となりました。

夕刻 5 時から場所を替えて（四季自然喰処「たちばな新大阪本店」）で IBC・DBC ナイト。IBC 高雄クラブ、台中エバグリーン（いずれも台湾）、ペンタゴン 5 クラブ総勢約 60 人が掘り炬燵式会場で懇親会が賑やかに行われました。

大野貞次さんの乾杯の音頭で宴は開会、IBC メンバーのあいさつの他特にあいさつ等はなく、ひたすら目の前のご馳走に舌鼓を打ちながら同じテーブルに座った人とのおしゃべりで旧交を温めました。7 時頃大阪流手打ちでお開きとなりました。楽しい一時でした。（神谷幸男）



IBC・DBC ナイト

YMCA Today

▼10 月 31 日～11 月 2 日、「第 19 回ソウル・台北・東京 YMCA 指導者協議会（STT）」がリッチモンドホテルプレミア東京押上を会場に開催されました。

今回は東京 YMCA が主管となり、3 つの YMCA から理事・監事・評議員・運営委員・ワイズメン等、67 人の参加がありました。基調講演は、アジア・太平洋 YMCA 同盟元総主事の山田公平氏に「高齢社会における YMCA の役割」をテーマにお話し頂き、ホテル学校からも中国語の講師に通訳をお願いした。アジアに連なる大都市 YMCA の連帯、交流が図られました。

▼東京 YMCA が港区の指定管理者として 2007 年から運営している「芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ」と「芝浦アイランドこども園」が開設 10 周年を迎え、公募による選考を経て、「交流プラザ」は来年度からの 5 年間、「こども園」は 10 年間の運営継続が決定しました。今後も港区のコミュニティの核としての働きが期待されています。

▼現在日本 YMCA 同盟が中心となって、日本の YMCA 全体の「ブランディング」が進められています。YMCA とはどういった団体なのかを広く社会に認知してもらうため、ロゴマークを含めて YMCA のブランド力を向上させるための取り組みです。今後もこのコーナーを通じて皆様にもご報告してまいります。

（担当主事・宮崎 純）

東京YMCA新春午餐会

日 時；1 月 20 日（金）

12：00～13：30

会 場；神田錦町 学士会館

卓話者；作家 阿刀田 高氏

「日本語と言葉遊びの愉しみ」

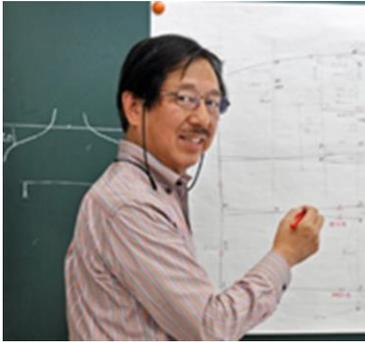
日本語の豊かさと楽しさを、和歌、俳句、落語など、広い視点からお話しいたぎます。

会 費；4,000 円（昼食付き）

☆☆ インタビュー ☆☆ 伊丹一之さんに聴く

* * *

伊丹一之さん(東京むかで)は、直前東新部長です。



—伊丹さんというとカメラの印象がありました。

「写真大学卒ということを見込まれて、言ってみれば東京むかでクラブのカメラマンでしたから。入会のきっかけは、東京むかでクラブが高輪プリンスホテルで、1977年の日本区大会をホストすることになって、写真記録係を仰せつかったことによります」
—スーツをびちっと着こなしておられたのが印象的でした。

「大学を卒業して4年ほど、米国フィルムメーカーの輸入商社で教育の仕事をしていました。1974年には家業のテーラーを継いでいました。ワイズ入会はテーラーになって2年目でした」
—修業はどうやって。

「大学時代に父が主宰する『いたみ裁断教室』で一通り裁断を勉強しました。家業を継いでからは仕事をしながら父に学びました」
—今は。

「私は、接客、採寸、裁断、仮縫い着せ付け、補正、最終プレスを担当します。仮縫い縫製と本縫いは、専門の職人が担当します。イージーオーダーでも採寸して寸法表に記入しますが、裁断技術のある人が数字を入れると出来上がりの満足度が違ってきます」
—若い人に洋服づくりを個人指導されているそうですね。

「ええ、今はメンズの裁断(製図、パターン、生地裁断)を教えると

ころが他にはないので、テーラーを目指す人に教えています。生徒は、ほとんど若い男性です。テーラーの後継ぎさん、ファッション専門学校は出て、本格的なテーリングを学びたい人などです」
—私が新入社員だった頃、1年中背広の月賦を払っていました。

「吉田さんの若い頃は、既製服はまだ少なく、オーダーメイドだったから、大卒初任給くらいの値段でしたね。今は、イージーオーダーが増えて、お手頃になったと思います」

—良いスーツとは。

「一日中着ていても脱ぎたくない、身体にストレスがかからないスーツ。気になっている体型をカバーして、若々しくカッコよく見えて、着る人の品格を高めてくれるようなスーツでしょうか」
—上手な着こなしのポイントは。

「一番目につくのはVゾーンで、上着、ネクタイ、シャツのコーディネートがポイントになります。上着とシャツは同系色でまとめて、ネクタイでアクセントをつけると良いでしょう。さらに、どれか1つを無地にすると品よくまとまります」

—伊丹さんとYMCAの接点は。

「小学校4年生から、夏休みに東京YMCAの神田会館で行われていた夏季学校に参加していました。中高生の時には、少年部のグループ活動に入って、いろいろな活動をしていました。東海道を名古屋まで12日間かけて歩いたこともあり。毎週土曜日に学校から帰ると、都電に乗ってYMCAに行っていました。夏休みにはキャンプです。小学生は観音崎、中高生は野尻、大学になってからは山中湖にも行きました。みんなリーダーに憧れ、リーダーはYMCAスタッフに憧れ、大きくなったらと思っていました。

—リーダーもやられましたか。

「はい、夏季学校のリーダーをやりました」

—それですんなり、ワイズメンズクラブに入会された。

「というわけではないのですが、1975年に、野尻学荘OBで、裏地・ボタン商だった真田慎一さんに誘われて入会しました。ワイズのことは少年部に援助をしてくれるおじさんたち、くらいの印象しかありませんでした」

—東京むかでクラブは、東京YMCAの少年長期キャンプ、野尻学荘OBのクラブと言われていましたが、今もそうなのですか。

「創立時から私が入会した頃まではそうだったようですが、その後はユニークダンスなども行って学荘OBの比率は減りました。今はまた増えて、メンバー16人の内、8人くらいでしょうか」

—東京むかでクラブからは、優れたワイズの指導者が多く出ましたが、中で影響を受けた方は。

「入会当時70代だった殖粟文夫さん(日本区第6代理事)、60代だった佐藤邦明さん(同第23代理事)からは、ずいぶん人生勉強をさせていただきました」
—ワイズ歴が長く人望も見識もあるのに、区の役員をあまりされませんでしたね。

「目立たなかったかと思いますが、30代のころには日本区の組織検討委員になりました。東日本区になってからは2001・2002年度に国内担当事業主任、その後はLT委員を長く務めました」
—昨年度は東新部長をされました。若いワイズメンに言いたいことをお聞かせください。

「27歳で入会して40年ほどになりますが、何が良かったかという、幅広い年齢の方、様々な業種の方々、海外の方との交わりの中で、グローバルな人生経験を積むことが出来たということです。今の若い人たちにも、ワイズは人が育つところなんだということを説いていきたいと思っています」

—ありがとうございました。

(吉田明弘)

**(D)百歳長寿の前に立ちはだかる
認知症①**

「恍惚の人」という有吉佐和子の長編小説が、昭和47年にベストセラーになり、映画化もされ、[老人ボケ]が高齢者の現実の姿として、囁かれ始めた。

その頃[老年痴呆]から「認知症」と医学用語が変わり、実態が次々と明らかにされた。「正常に獲得された知的機能が、後天的な脳の障害により低下し、日常生活に大きな支障をきたしている状態」と定義されている。高齢化がもたらした深刻な「病気」で、脳血管性認知症と、アルツハイマー型認知症に大別され、現在治癒不能の后者が問題になっている。年と共に増加し、85歳以上の高齢者の4人に1人が患っていると云われている。

予防は可能である。認知症の予防は、多くの百寿者や研究結果を参考に自ら実行することにつきる。

a) ボケない道歩くためには 4

つの習慣が大切。①喫煙しない、②アルコールは1週間に14杯以下(ビールなら1日中瓶1本、日本酒なら1合、ワイングラスなら2杯)、③果物や野菜を毎日、こぶし大5個分、④1日30分程度の軽い運動をする、の4つで、これで約14年ボケないで長生きする。(ケンブリッジ大学の百寿者報告)

b) ボケない食事としてボケない百寿者の好物調査(日本の健康体力作り事業財団1,907人)では、果物(18.5%)、魚(12.3%)、甘いもの(10.7%)、刺身(9.5%)、なんでも(15.1%)が報告されている。

c) 果物や野菜ジュースを週3回以上飲む人は、1回も飲まない人より認知症の発生率が7割低い。(2006年米国)

d) 魚の予防効果: 魚を殆ど食べない人は、1日1回以上食べている人の5倍の認知症の危険があった。

e) 乳製品: 習慣的にとる人は、

とらない人に比べてボケ、寝たきりになりにくい。時に応じて牛乳、ヨーグルト、乳酸飲料、チーズその他の乳製品をとること。

f) ワインの摂取: 飲まない人に比べて、週1回以上飲む人は認知症の危険度は半分で、赤ワインには長寿遺伝子をオンにするレスベラトロールが含まれ、細胞の寿命を延ばして老化を遅らせる。(ハーバード大学のネズミの実験)

g) ガレンテ教授のブロッコリーとトマト: 長寿遺伝子のサーター遺伝子の発見者ガレンテ教授は「大事なものはバランスで栄養のバランス、食事と運動のバランス、ストレスとのバランスをとること」と語り、ブロッコリーとトマトを愛用する。ブロッコリーには茎にもV-Cが豊富、トマトには塩分を排泄するカリウムが多く、トマトの栄養効果は加熱・濃縮でより高まるので、焼きトマト、缶詰、トマトジュース等も大いに摂りたい。(次号に続く)

『DAISY』と出会って

篠原文恵

「DAISY」は、花の名前ではありません。目の不自由な方のために音訳した音源を、デジタル録音図書として編集する作業です。数年前に例会の卓話で活動内容を聞いたあと、地元のNPO団体に入会しました。

近年、糖尿病の合併症などにより、点字で情報を得ることが難しい中途失明者が増えているそうです。専用ソフトを使い、目次や頁を加え、利用者が専用機で読みたい見出しや頁へすぐに移動させて聴けるようにしてデータをCDに書き込み、図書館などに配布しています。

現在はスマホなどでも音訳機能があるようですが、表組や写真説明などの変換は不可能で、3年前に試作ソフトを試しましたが、

誤訳が多くまだ高価で実用には早期と判断されました。

「声のたより」と称して、新聞のニュース、動植物の記事、銀座百点などをまとめて1冊の月間本が出来上がります。「週刊東洋経済」も他チームで製作していますが、週1回の発行はかなり忙しいようです。読み手の個性、情緒が感じられる肉声で音訳されたものは評価が高く、ニュース原稿以外は、まだまだすべて機械にお任せとはいかないようです。

単行本の作成に関わる時は、自分では選ばない分野の本に出会い、何度も読み返す必要から、より深く読書をする結果になり、次の出会いを心待ちにすることになります。

毎月点字のお便りを下さる読者があり、それらを読み返すことは喜びであり、自宅にいてコマ切れの時間を活用できるので、もの

ぐさの私にはぴったりの作業で、長く続けたいと思っています。

編集後記

今年も早や12月となり、これまで比較的暖かった日々も一気に冬景色となりました。インフルエンザが蔓延しそうだとのことです。お互い健康には十分気を付けましょう。

原稿を早々にご執筆下さった方、有難うございました。「DAISYと出会って」は我がクラブのメンバー(篠原文恵さん)が地域(社会)奉仕をなさっていることが伝えられました。本当に素晴らしいことです。そのきっかけが例会でのスピーチであったとのことですが、この2つのことはクラブにとっても大変嬉しいことです。

12月はワイズ年度の半ば、後半は次期部長大野さんの支援にハズミをつけましょう。(S.K)